



水野さんに対するパワハラの実態 その⑥

これが所長面談の実態だ！

密室であることを利用し、やくざそのものの口調で退職を強要する卑劣な手口！

約1ヶ月にもわたる『日勤教育』期間中、水野さんは赤地所長との面談を4回指示されました。

毎回赤地所長は一方的に、今回の原因は水野さんの「家庭問題が原因だ」と、個室で二人だけなのをいいことに、ヤクザとかかわらぬ口調で脅してきます。ただでさえ、『雲の上』のような存在の所長と普段から話すことがない水野さんは、ますます萎縮して恐怖におびえます。

《 赤地所長の発言の一部抜粋 》

「家が仲よくて起こることもあるけど、悪いが起きた時に大概いい状態ってのはあんまりないな」

「人間ってのは長い目で見た時に、家庭というか、自分の足場がしっかりしてないと」「もう食えんわな」

「クビや。クビか自分で首くるかよ」

「誰も助けてくれんで。そうなったら会社辞めてくれって話にしかならんで。あとは好きにやってくれ」

「うちの会社とは縁切ってやってくれ」



会社はこれを『説諭』（悪い行いを改めるよう言い聞かせること。）と言っているようですが、果たしてそうでしょうか？ これを読まれた皆さんはどう思いますか？ 何階級も上の方がこのようなヤクザとかかわらない口調で話をしてきたら、ほとんどの人は非常に威圧的に感じて、本音で話すことはできず、まして反論などできるわけがありません。これは、職務上の優位性を背景に立場が下の人に対して、自分の考え方に仕向けようとするやり方であり、パワハラ以外の何ものでもありません。

なぜ、本来パワハラを防止すべき立場の現場長自らがこのような発言をするのでしょうか？ 赤地所長個人ではなく、この会社の社員管理がそういうものなのだとと言えるでしょう。

そして、水野さんは、赤地所長の「自分で首くるかよ」「会社辞めてくれって話にしかならんで。あとは好きにやってくれ」「うちの会社とは縁切ってやってくれ」という退職強要発言で、更に精神的に追い込まれていきます。